

「満州国」の実態日本の完全なかいらい政権

1932年(昭和7) 3月関東軍は旧清朝の廢帝愛新覚羅溥儀(あいしんかくらふぎ)をかつぎだし、「満州国」を建国させ首都を新京(長春) に置きました。関東軍は当初、「満蒙」の日本併合をめざしましたが、国際批判をかわすため中国側の自発的意思による独立国の樹立であるかのよう装い、「満州国」建国という体裁をとりました。

「満州国」は、面積で日本列島の約3倍の120万平方、人口2800万人でした。

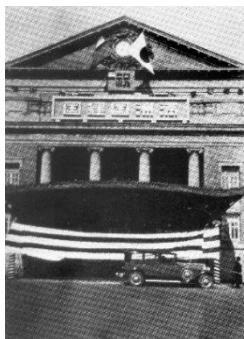
「五族協和」「王道樂土」をスローガンとしましたが、実は関東軍日本人官僚によって支配された完全なかいらい国家でした。関東軍司令官がすべての権力を掌握しました。そして抗日運動を弾圧する一方、中国全土の侵略をめざす軍事的・経済的基地として「満州国」を強化することに総力をあげました。

「満州国」首都新京に君臨する旧関東軍司令部。



日本の天守閣を戴いた屋根が市内を威圧していました。(毎日新聞社「昭和史 別巻1—日本植民地史」より。)

飾りつけられた新京駅



首都を長春とし、新京と改名され、「満州国」建国が宣言されました。溥儀が新京入りした3月8日、新京駅には新国家の国旗と日の丸が組み合わされ、「祝満州国建国」の飾りつけがされました。

(『写真記録 2 日中戦争』ほるぷ出版)

国際連盟、「満州国」を認めず

中国政府はただちに「満州「国」を承認しない」と宣言しました。また中国側の要請をうけ国際連盟

柳条湖線路爆破の現場などを調査する リットン調査団



はリットン調査団を現地に派遣しました。

リットンを長とする調査委員会が、日本・中国・



満州で調査をおこない、柳条湖事件については日本の合法な自衛の措置とは認められないといし、満州国は純真かつ自発的な独立運動の結果ではなく、中国の広大な領域が日本軍の武力による占領されたものと認定しました。

その調査団の報告書が 1932 年 10 月に公表され、「満州国」は日本軍の武力により占領されたものと認定しました。33 年 2 月、国際連盟総会での結果は、賛成 42 に対し反対は日本のみでした。孤立した日本は、3 月 27 日国際連盟に脱退を通告しました。